

2019 年度第二回関東学連臨時総会

日時 2019 年 9 月 3 日 16:00～
場所 ファミテック明神
文責 小林尚暉（東京）
出席 茨城 関東学院 慶應義塾 実践女子 千葉 中央 筑波 津田塾 東京工業
東京農工 東京理科 日本女子 一橋 フェリス 法政 横浜国立
委任状 相模女子 十文字女子 東京 横浜国立 立教 早稲田
欠席 電気通信
議長 田淵ヒカル（慶應義塾）
→全会一致で承認（15）

議題

1. 2018 年度会計報告
2. 推薦規約について
3. セレ中止時の代替案について
4. 関東学連団体戦について
5. 次回総会日程と議長決定

1. 2018 年度会計報告

別ファイル参照

2. 推薦規約について

幹事長 インカレ推薦規約において基準となる実績に不自然と思われる点が見られた。
女子に関して、インカレロングとミドルは出走者数が同じであるにも関わらず
ロングは 15 位、ミドルは 10 位以内を基準としている。

東京工業 当時規約を制定した学連の関係者に問い合わせるべきではないか。

幹事長 出場者数が異なる。次回までに関係者に確認する。

立教 今のままで良い。

幹事長 男子はともに 20 位以内となっている。出走者数の比率をこれに反映させるの
が良いのでは。

日本女子 個人的に、揃えたら良いというのには納得。ロングの 15 位に合わせると可能性
は広がるが、基準がより曖昧になるという側面もある。

幹事長 必ず満たさなければならないものではなく、また 1 年前の結果であることから
基準は緩めに設定しても良いと思われる。

渉外部長 今後も規約に残るのであれば、出走者数の変更に対応できるよう基準となる順位の計算式を規約に明記すべき。

幹事長 当時の学連関係者へ問い合わせた結果と本日の意見をもとに各校で再度話し合い、次回総会で決定する。

幹事長 併設 3 位以内も推薦基準となっているが、選手権クラス 20 位以内とそのボーダーが同程度の実力であるとは考え難い。これに関しての意見を集める。

東京工業 併設 3 位以内は実績としての価値を認められないが、前年度に推薦で通過しなかった実力ある選手を推薦するための措置として有効である。

幹事長 併設 3 位以内に入る選手は最大で 12 人となる。こちらを変更しないのであれば、選手権における基準となる順位を変更しても良い。

渉外部長 救済措置を残すというのであれば、基準を併設 1 位に変更するのが良い。

幹事長 選手権 20 位以内という基準がかなり厳しく、実際にはこれを満たしている人はほとんどいなかった。規約を明記する目的を考えると、緩くしても良い。

渉外部長 基準を緩くして学連で判断するのが良い。

事務局長 枠獲得者数を参照するという意見もあった。この場合、現在は男子 30 位、女子 15 位。

幹事長 参照順位と併設の有無について、次回総会までに文書化する。これを各校で承認を取る。

3. セレ中止時の代替案について

幹事長 以前作成した割り振り方式は承認されたため、大枠はそれを用いる。次回までに文書化して承認を取る。女子に関して、参照するレースを決定する。

実践女子 直近が良い。

立教 直近が良い。可能であれば、両方を参考にするのも良い。

日本女子 直近が良い。一年前のものでは現在の実力を十分に表せない。

幹事長 多少得意不得意があっても 2 種目の実力には極めて大きな相関があり、前年度との比較よりも精度が良いと考えられる。

事務局長 速い人を通すのであれば、2 回のうちどちらかで条件を満たせば良い。

幹事長 確定で通る人が多くなりすぎないか。

事務局長 それほど人数はいない。

幹事長 枠の数をオーバーし得るのは制度上問題がありそうだが、減多に起こらなさそうなので発生した場合にはその都度協議すれば良い。

会計監査 確実に実力をつけたものを通したいため、直近のものは必ず使用しなければならない。また、実力がある選手は他種目でも十分に速いというのであれば、直

近のみでも問題はない。

事務局長 対象が少なすぎても推薦で選ぶ人数が増えて大変なのではないか。

幹事長 直近と両方の二択に絞って考える。次回総会までに意見を集める。

4. 関東学連団体戦について

例年と同様に、関東学連団体戦を山リハリレーに併設する。

→全会一致で承認(16)

5. 後援申請

千葉大大会の後援申請

→全会一致で承認(16)

茨城大大会の後援申請

→全会一致で承認(16)

6. 次回総会日程と議長決定

10/26(土)

議長 薄井(中央)

場所 日本女子大学目白キャンパス